

同窓会からの学生支援及び栃木県教員採用試験の変更点

これまで同窓会として、様々な学生支援を行ってきましたが、令和6年度実施からの栃木県教員採用試験の一部変更に伴った学生支援の様子を紹介します。

同窓会から教員採用試験に向けての学生支援

1. 教員採用試験対策セミナーへの支援（春期・秋期）
同窓会員による面接指導
2. 就職支援室での支援（月～金 10:20～16:20）
相談・面接指導・論作文指導 等



栃木県教員採用試験内容の主な変更点について

1. 第1次試験で実施していた実技試験（中高の「音楽」「美術」「保健体育」を2次試験に移行）
→ 1次試験は学力試験のみとなる。（令和7年実施）
2. 第2次試験の内容の変更点（令和6年実施）

区 分	変更前	変更後
小学校 中学校 養護教諭（小・中学校）	・面接試験（ <u>集団討論・個人面接</u> ） ・ <u>作文</u> ・実技試験（中学校）	・面接試験（ <u>個人面接①②</u> ）※ ・実技試験（中学校） ※①資質に関する内容 ②実践的指導力に関する内容
高等学校 特別支援学校 養護教諭（高等学校・特別支援学校）	・面接試験（ <u>集団討論・個人面接</u> ） ・ <u>作文</u> ・実技試験（高等学校）	・面接試験（ <u>個人面接①②</u> ）※ ・ <u>論作文</u> ・実技試験（高等学校） ※①資質に関する内容 ②実践的指導力に関する内容

3. 講師等経験者特別選考を実施（書類選考の結果対象となった者は、第1次試験の一般教養試験を免除する。）
4. 大学3年生を対象とした特別選考を実施（1次試験の受験を可能とするもので、1次試験合格者は、翌年の採用選考では、1次試験が免除される。）
5. 小学校及び特別支援学校（小学部）の実技（音楽実技・体育実技）は令和2年より中止

目 次

同窓会会長と共同教育学部長からのメッセージ…	2	・ 大学生活奮闘中……………	8
同窓会から学生への支援……………	3	・ 宇都宮大学共同教育学部同窓会について…	9
懐かしい学生の頃……………	4	・ 定期総会の概況……………	10・11
現場からの声……………	5	・ 編集後記……………	12
今に生きる……………	6・7		

同窓会会長と共同教育学部長からのメッセージ



憧れる

宇都宮大学共同教育学部同窓会会長
橋本 和 英

皆様におかれましては、ご健勝のこととお喜び申し上げます。

私が知っているアイスホッケーについてエピソードをひとつ。企業廃部により日本初のプロアイスホッケーチームが日光に誕生したのは25年前になります。大企業のスポンサーがない日光アイスバックスは、経営難で今度こそ廃部かと思った誕生5年目「セルジオさんが来ると元気になる」という声を聞き、サッカー解説者のセルジオ越後さんが日光にやってきました。

セルジオさんは、無償で再建に奔走されました。社長になり、仲間を増やすことを念頭に、スポンサーを大口でも小口でも同じように対応され、多くの仲間が支えるクラブとしてチームは今でも頑張っています。

セルジオさんは日系ブラジルの方で、サッカー選手でした。50年程前に県北のサッカーチームからのオファーにより2年の約束で選手として来日されました。

その後、別の団体のサッカー普及活動の依頼を受けて「さわやかサッカー教室」を25年間も続け、参加した子どもたちは、60万人にも上ったそうです。

教室は、まず子どもたちにテクニックを見せ、その後一緒にプレーする形です。理屈で覚えるのではなく見て真似てできるようになっていく、その「できた」という喜びで楽しくなり、好きになるという形です。今でも子どもたちの「やり方を教えてください」ではなく「もう一度見せてください」とお願いにきた姿が忘れられないそうです。自信をもって子どもたちと向き合われた姿、教員だった自分を振り返り憧れます。

本会は、教員を目指す学生の皆さんへの応援を大きな柱のひとつとしています。憧れのセルジオさんには及びませんが、学生の皆さんのため「物価高における支援」、「就職支援」も頑張っており取り組んで参ります。

皆様には、ご理解ご協力をお願い申し上げます。



養い、育まれて

宇都宮大学共同教育学部学部長
松村 啓子

令和7年4月より共同教育学部長に任ぜられました、松村啓子です。日頃

より学生たちに温かいご指導とご支援を賜り、厚く御礼申し上げます。おかげをもちまして、3月に共同教育学部二期生を送り出し、令和6年度卒業生167名のうち111名が教師としての一步を踏み出しました。令和7年度教員採用試験の合格率は70.2%（小学校86.5%、中学校60.7%、高等学校33.3%、特別支援学校71.4%）で、前年比マイナス9ポイントとやや苦戦しましたが、教員就職率は66.5%と、前年から4ポイントの上昇となりました。

去る6月17日、気温が35度にせまる炎暑のなか、同窓会員の先生方に教員採用試験個人面接等指導を行っていただきました。また8月にも2次試験直前の面接指導を行ってくださるとのことで、先生方の熱いエールに応え、学生たちが試験当日に全力を出し切ることを願うばかりです。

唐突ですが、同窓生を意味する英語の「alumni（アラムナイ。alumnusの複数形）」は、「養う」「育てあげる」という意味のラテン語alereから派生しているそうです。共同教育学部同窓会の連綿と続く活動を思うとき、常緑樹の新葉が前年までの葉が蓄えた栄養によって芽吹き、燦々と光を浴びて成長する姿が脳裏に浮かびます。峰キャンパス内のクスノキやマテバシイの新葉は、4月上旬の萌黄色から日一日と緑を濃くしながら、旺盛な生命力で前年の葉を覆っていきます。

在学生や新卒生は、教採試験に向けて同窓の先生方に励まし導いていただいたこと、新任教員として活躍の場を与えられたことを決して忘れないでしょう。時が経てば、かつての若葉は後輩たちを育む側となります。そのような同窓会の尊い営みに支えていただき、子どもたちが学ぶ姿に目を凝らしながら、自らも学び続ける教師の育成に力を尽くす所存です。



「眼差し」 美術分野 ウイリアムス アビオラ 穂波

同窓会から学生への支援

共同教育学部の学生の就職に役立てるよう、
同窓会員が支援



子どもたちに寄り添える先生に

就職支援対策セミナー指導員

大沢 智恵子

「学校の先生」という言葉から思い浮かべるのは、「元気」「楽しい」「優しい」「遊び」「博識」など多様です。

私は、学生の皆さんに子どもたちの成長に寄り添っていける教員になってもらいたいと思い、面接指導にあたっています。面接では、知識や考え方だけでなく話す表現力やコミュニケーション力が問われると思うので、練習をくり返す中で自分の力をつけていってほしいです。自分の思いや考えをその瞬間に短い文章でまとめて相手に伝えるのは難しいとは思いますが、その話のはしばしに子どもたちへの愛情が感じられると好印象です。

教員採用試験というハードルを突破して子どもたちに笑顔で寄り添う先生になった学生の皆さんを想像しながら面接指導に臨むのは私の楽しみでもあります。



なりたい自分に近づくために

教職センター／客員教授・コーディネーター

井口 桂一

教職センターでは、授業や学生ボランティア活動のサポート等の仕事をしていますが、就職支援室での教員採用試験対策に関わるお手伝いもしています。

最近の教員採用試験は内容が多様化しており、面接や論文だけではなく「場面指導」「模擬授業」を取り入れる自治体が出てきており、就職支援室では朝倉先生と高島先生が最新情報をもとにしながら学生さんのサポートの仕事を企画立案しています。ほんの少しですが、私もそのお仕事の一部を担っています。

本学の学生さんは、明るく、そして丁寧に試験勉強に取り組んでいますので、面接・模擬授業のサポートは私にとっても有意義な時間となっています。一人一人のよさを見出して励まし元気づけながら、学生さんが安心して受験日を迎えられるよう応援しています。より多くの優秀な人材を学校現場に送り込めるよう、学生さんを支援していきたいと考えています。



まな板の上の鯉

美術分野卒

高崎 翔

今年の4月から中学校の美術教師として勤務しています。忙しい日々ではありますが、子どもたちと関わることはとても楽しく、充実しています。そんな今の教員生活があるのは、試験対策をしてくださった学部・分野をはじめ、同窓会の先生方のご支援のおかげです。

まな板の上の鯉とは面接対策をしていく中で、心配性で緊張のしやすい私に同窓会の先生が「できるだけのことをやったらあとは運命にまかせるしかない」という意味でかけてくださった言葉です。試験対策はどれだけやっても不安な気持ちになることはないと思います。しかし、「できるだけことはやった」という自信が試験当日、必ずあなたの力になります。

教員を目指している学生の皆さん、就職支援室など頼れるものには頼りながら試験勉強を頑張ってください。そして、なにより大学生活を思う存分楽しんでください！



温かい支援のおかげで

教育心理分野卒

江俣 遥香

期待と不安で始まった教員生活も、早3か月が経ちました。今こうして夢だった教員生活を送ることができるのは同窓会の先生方の支援のおかげです。

特に支援室の朝倉先生、高島先生に数多くの支援をして頂きましたが、その中でも私は精神面で励まされる事が多くありました。周りとは比べて焦りを感じた時、些細なことで困った時、私はいつも支援室に足を運び、話を聞いてもらいました。先生方と話す、いつも心が温かくなり、前向きに試験対策に取り組む事ができました。支援室を利用して本当に良かったです。

支援室を利用することに早すぎると言うことはないと思います。少しでも試験について知りたい、悩んでいることがあると言う方はぜひ利用してみてください。

私も先生方のような素敵な教員になれるよう、今後も努力し続けていきたいと思っています。

懐かしい学生の頃

大学を卒業した皆様の当時の思い出



大学生活を思い返して

西方支部 草刈 勇 貴

峰キャンパスでの日々は、今の私に大きな影響を与えている。私は教育学部に入ったものの、教員になることを真剣に考えていなかった。教員を目指す友人とのかかわりや教育実習を通して、だんだん準備ができていったと感じている。

一番よく覚えていることは何かと考えると、国語科の仲間との日々を思い出す。親しかった友人とは文学作品について解釈が食い違い、議論することもあった。ただ国語が得意だったから国語科を選んだ私が、今でも国語を面白いものだと思うのは、ご指導いただいた先生方や、共に学び、意見を交わした仲間のおかげだ。この場を借りて感謝を伝えたい。

現在の学生が、高め合える学友とともに充実した学生生活を送り、教育への熱意を高めてくれるように祈念している。



一生の宝物

岩舟支部 宮崎 俊 臣

スキーに興味があった私は、スキー部に入りました。しかし、思い描いていたものとは違い、斜面に赤と青の旗門を立て、誰が一番速く滑ってこれるか、タイムだけで勝敗を決めるアルペンスキー部でした。全く経験の無い私は大きな不安を抱きました。北海道や秋田で全中やインターハイに出場していた人もいて、これはまずいと思いました。予感的中しました。大学生活最後の大会。結果は500人中495位でした。何もできずに4年間が終わりました。悔しさが残りませんでした。悔しさをバネに競技を続け、38歳のとき栃木県で優勝し、夢の舞台であった国民体育大会に出場することができました。あの時の悔しさがあったからこそ、出場できたのだと思います。宇大での4年間は、私の一生の宝物です。



様々な人との出会いが…

塩谷支部 高橋 里 佳

大学に入学してからの4年間、様々な人達との出会いがあり、私自身の考え方も大きく変わった。

特に、自分で考え行動することの大切さに気付かされた4年間であった。それまでの私は、常に受け身で、自分の考えを明確に持てていなかったように思う。

私は本当に教師になりたいのかを確かめるために、様々な業種の仕事を体験してみようと、アルバイトに励んだ。家庭教師に塾講師、飲食店員、事務職員、ホテルの配膳スタッフ、試飲試食販売員、キャンペーンガール等々、多くの社会人の方々とお仕事をさせていただくことができた。

そして、教師になりたいという意思をもって教師になった。学生時代の多くの人との出会いは、私の教員生活で大きな財産となっている。



「Sweet Princess」 美術分野 松本弥紗

現場からの声

教職に就いて活躍している人の
メッセージ



数々の出会いを経て

芳賀支部 野本 真衣

宇都宮大学への進学を機に、故郷である福島県を離れ、そのまま栃木県の実教現場に飛び込むことを決めた7年前の自分。あのときは、地域性も分からず人脈もなく、地元に戻らなかったことを後悔する気持ちと、自分の選択が間違いではなかったことを証明したい気持ちとで常に揺れていました。

今では慕ってくれる生徒やサポートしてくださる保護者の方々、そして多くの同僚に出会い、日々支えられています。特に、初任者のときにありとあらゆることを教えてくださった先輩教員の方々、初任者指導の先生の支えがなければ、今日まで続けることはできませんでした。あの時の恩を返すために、今は後輩の教員に自分が知っていることをできるだけ伝え、見守り、支えることを心掛けています。多くの出会いが、私の自信につながっていることに感謝し、今後も栃木県の実教現場で頑張ります。



誰もが通る道

佐野支部 松原 泰明

教員になって、4年目を迎えた。新規採用の頃と比べて次に何をしたらよいのかが少しずつ分かり、失敗することも減ってきた。

初任の時は授業も児童指導もなかなかうまくいかず、失敗ばかりの毎日。そんな中でも、教員の仕事を続けることができたのは、大学の先生方を始め、多くの人の支えがあったからだ。同じ職場の先生には「誰もが通る道だから、大丈夫だ。」と、励まされた。この「誰もが通る道」であるという言葉で、少し気持ちが軽くなり、次は頑張るぞという活力になった。

加えて、最近思うようになったことがある。小学校という環境も「誰もが通る道」だということだ。私にも小学生の頃が確かにあった。今私が担任している児童のように楽しみ、たくさんの成功と失敗を経験した。今度は教員という立場で、今までお世話になった分を還元していきたい。



若樹に託す

藤岡支部 鈴木 龍一

宇都宮大学卒業の教員が現任校には私を含め3名しかおりません。私が教員になった頃とは随分変わりました。昨年度から初任者指導教員として新採の先生のお手伝いをしています。宇大新卒の先生を昨年度担当する機会に恵まれましたが、年度途中体調を崩し退職されました。自分の力不足を今も悔やんでいます。

4月より再任用で週3日2名の新採の先生の指導をしています。一人が50代の頃の教え子で専門教科が同じなので、一緒に教材研究をしたり授業をしたりと充実した日々を過ごしています。お二人とも全力で生徒と向き合い心身共に疲れているときがあります。まめに声掛けをし事務作業を手伝って負担の軽減に努めています。周りの先生方の温かい心遣いにも感謝しています。1年後少々風雪を物ともせぬしなやかな若樹に成長することを願い、俱に進んでいこうと思います。



この詩とともに

塩谷支部 大関 絹恵

足利市出身の書家、相田みつをの詩に出会ったのは、初めて6年担任となった新採4年目の4月でした。

「花を支える枝 枝を支える幹
幹を支える根 根はみえねんだ」

「樹木をしっかりと支えている根は、大切な存在だけれど土の中であってみえないんだ」という言葉に感動し、6年生には学校の根になってほしいと、この詩を引用して学級活動をしたことをよく覚えています。

あれから33年。機会のあるたびにこの詩を引用し、学校を支える根のような6年生に育ててほしい、育てたいと考え、日々の指導や支援を心がけてきました。

そして校長となった今、この詩の解釈は広がり「成長した根を受け止める大地が私たちである」と捉え、教職員に伝えていきます。そして、児童を支え成長を促す大地になれるよう、一丸となって取り組んでいます。

今に



ビバ・ラ・ビダ

宇都宮支部

礒 弘子
昭和58年度卒

退職後、週3日から週2日の勤務を経て、今年から無職になった。素敵な人たちに囲まれながらの仕事はやりがいもあり、離れがたかったが「60歳を過ぎたら先のことは考えずに、いつ何が起きても後悔しないよう好きなことをしなさい。」と書かれた雑誌の一文に強く背中を押され、仕事をしないという選択をした。

私が就職した頃、定年は60歳だった。仕事と家庭の両立という慌ただしさからも、60歳になれば解放されると信じていた。それが今や定年は65歳となり、今後は70歳までに伸びそうな勢いである。年金の支給も65歳と先延ばしになり、先々の生活を考えれば元気なうちは働くのが当然かもしれない。

でも、私は、自由に時間を使えるという贅沢を今楽しみたい。慌たたく駆け抜けた在職時に「いつか時間ができたら…」と先送りにしてきたことにこれから少しずつ取り組みながら、手間を惜しまぬ丁寧な暮らしを心がけていきたい。

時間という味方を得て、毎日ささやかな喜びが何かしらあることに気づいた。今後も人との関わりを大切にしながら、余生を謳歌しようと思う。



ボランティア活動を通して

日光支部

鈴木辰雄
昭和49年度卒

宇都宮大学を卒業して半世紀。世の中は大きく変わりました。時代の変化についていくのが一苦労。卒業後は教職に就いて38年。そして、その教員生活へ別れを告げてから十数年が経ちました。自分の生活も大きく変わりました。退職後3年間は青少年育成に関わる仕事に携わり、教員時代とは異なる人との出会いなど様々な貴重な経験を積みました。

今は孫たちとの毎日の関わりが元気の源となっています。また、小学校での絵本の読み聞かせ活動や小中学生対象の「わたしの町のたからもの絵画展」開催などのボランティア活動に参加し、子どもたちとの関わりを続けています。この活動でも多くの人々との出会いなど多様な経験を積んでいます。時には教員時代に

関わった子どもたちとの思いがけない再会の場を生み、その成長した姿を見て、教員としてその子たちに関わったことへの喜びを感じる事もありました。

自分の時間を持つことも大切です。大学時代の仲間や教員仲間とのゴルフも楽しみの一つ。時間を有効に使いながら、今後もボランティア活動に取り組めたらと思っています。



教員になって本当によかった

芳賀支部

高久富夫
昭和47年度卒

教職を完全退職して8年、現在は父から引継いだ家業を細々とやっています。

私の趣味は旅行と野球でしたが、「百名水」を完遂した直後に起きたコロナ禍で、旅は小休止。今の楽しみは野球とテレビです。野球については、定年後各種大会や沖縄のキャンプ巡り等に何度も出かけました。さらに、清宮・佐々木選手見たさにU18カナダ・釜山大会にも行きました。そして60代半ばからは、連盟の常任理事、3年前からはOB会長を務めています。御陰様で、就任直後から会員の甲子園出場、懸案であったゲージの寄贈など、うれしいことが続いています。テレビはスポーツ・自然・ドラマなど何でも観ます。また、体力づくりのため週4回の運動を心掛けています。

私も後期高齢者になり、通院回数が増えました。加えて、多くの科に掛るので、時間がとられる覚悟はしているものの、待ち時間だけは苦手です。そんな中、救いはかかりつけ医（内科・外科）の診療で、むしろ楽しみです。若い頃担任をしたお二人との会話は、自然治癒力アップの特効薬です。また野球部OBには、国内外でお世話になりました。特に、米国のイエローストーン国立公園と野球の殿堂への旅は、同行なしでは不可能でした。彼らに感謝しています。

これからの人生も、多くの人との縁を大切に、前向きに生きていくつもりです。



「夏」 美術分野 永井りこ



若者が思い出させてくれた「楽しさ」

石橋支部 中川 恵津子
昭和61年度卒

令和7年3月、38年間の教員生活を一旦退職した。4月から再任用で週2日の勤務となり、フレッシュな初任者の先生方と一緒に勉強する機会をいただいている。

現職のときの自分を振り返ると、分からないことや戸惑うことばかりで、特にスタートの1年目は周りの先輩方に助けられて日々新しく知ることの連続だった。それでも今よりは時間的に余裕があり、授業の準備も楽しかった。

社会全体の状況も少しずつ労働時間が長時間化していく傾向の中、自分を取り巻く環境も結婚や3度の出産を経てやるべきことが徐々に増えていった。年齢も上がってくるので、主任や校務分掌数も増えてくる。元々、要領があまりよい方でないし、核家族でもあったので、仕事を「楽しむ」から「こなす」になっていき、退職間近の頃も、同僚の先生方に恵まれていたからなんとか仕事できていた。

そんな私が今、4月から2人の新卒の先生と向き合っている。2人とも向上心があり、いつもキラキラ輝く目でクラスの子どもたちのことを語ってくれる。真剣に授業の作り方、児童指導のことで相談してくれる。私が時間的に余裕ができたのと、若者の情熱に触れたことで、「そうだ、授業の準備って、こんなに楽しかったんだ。」と、改めて初心を思い出す機会となっている。



新たなスタート

小山支部 矢口 大
昭和61年度卒

令和7年3月末、38年間の教職生活を終え、4月からは社会教育指導員としての勤務を始めた。新しい上司や同僚に恵まれ、落ち着いた環境で勤務できることに感謝している。これまで経験が無い社会教育に関わったり、DX化された勤務を通してたくさんのことを学んだり、刺激の多い毎日である。

併せて今年度から自治会の副会長を任せられ、会長を補佐しながら会の運営に携わっている。これまでは教職の忙しさもあって自治会活動にはあまり協力できなかったが、少し時間的な余裕ができた今、これまでの

埋め合わせの意味でも、また新たな生活の軸足を増やす意味でも思い切って引き受けた。高齢化や少子化への対応、ゴミステーションの管理や除草作業、お祭り運営等やるべきことはたくさんあるが、住みよい地域づくりに少しでも貢献できればと思っている。

これからも健康に留意しながら、新たな生活を充実させていきたいと考えている。



大自然のなかで思ったこと

足利支部 齋藤 浩史
昭和59年度卒

今年の5月、上高地から立山黒部アルペンルートに旅行に行きました。心地よい初夏の風、うぐいすの鳴き声、新緑のまぶしい山々、そして、きらきら光る湖面など、大自然の崇高さを肌で感じることで、時間の流れに逆らうことなく、ゆったりと過ごすことのできたひと時でした。

日進月歩ならぬ秒進月歩の現代社会は、必ず昨日よりも今日、今日よりも明日と、日々進歩し後戻り、後退することはありません。機械オンチの私も、スマホが離せなくなり…その分、何かに追われている、追いかけているような感じのする時もあります。

日々の生活から離れた今回の旅行で、3,000m級の立山連峰の絶景、雪解け水の流れる川など、想像を超えたスケールの大自然に身を包まれ、自分自身の存在について、改めて見つめ直すことができました。

令和4年3月に退職して、2年が過ぎ、現在は「学力向上コーディネーター」として勤務しております。水泳やウォーキングで体を動かし、孫の成長を楽しみに、妻との生活を大切にしながら、時間にあらがうことなく過ごしていけたらと思っています。



「祭りの虎」 美術分野 伊藤彪人

大学生活奮闘中

共同教育学部の今
がんばっている人の言葉



詩的対話をもとめて奮闘中

教育学研究科 教授

青柳 宏

私は、2015年に開設された宇大教育学研究科（教職大学院）の専任教員として、大学院生の学びをサポートしています。また、学部の教育の一部も兼担として担っています。私が宇大に赴任したのは1992年です。あっという間の30年でした。

赴任した当初から、私には教育における「対話」にこだわりがありました。また、赴任後、「詩」に対する想いも深まっていきました。私にとって「詩」とは、他者の想いや様々な事象を深く感受し、それを表現していく、ということです。また、私にとって、「対話」と「詩」は密接に結びついています。なぜなら、「対話」の営みとは、語り合うなかで、他者や事象を深く感受していく営みであると考えからです。

以上のこだわりから、私は、例えば小中学校にお邪魔して、「詩を読み書く授業」を随分させていただきました。また、そこで子どもたちが書いた詩を新聞で紹介もさせていただきました。

「命／賀川璃乃（芳賀東小3年）／歩いている小鳥を見たら／追いかけてくなる／歩いている小鳥を追いかけたら／小鳥はにげてしまう／にげてしまった小鳥を見たら／わたしはこう思った／「命って大切な」／と強く思った」（下野新聞 2020年3月10日掲載）

かわいくて思わず追いかけた小鳥の「おびえ」から命の大切さを感じとる感受性に脱帽です。

私が大学院の教育研究で目指している「詩＋対話」とは、他者や様々な事象から何かを感じとり、その上で、新しい心の世界を共創していく営みです。現在の教育で大切にされている「主体的、対話的で深い学び」と重なりますが、敢えて言えば、その基盤となるものが「詩＋対話」だと考え、30年の歳月の中で、学部生に、そして院生に、様々な形で実践してきました。

戦争、貧困のような人間性の危機を感じる現在、子どもたちと教師が人間性を深めていく営みとして「詩＋対話」をとらえ、大学院と学部の日々の授業の中で、院生さん（学生さん）と奮闘しています。お互いに何かを伝え合えることに、教師としての幸せを感じて来た「あっという間」の30年でした。ただ、これまでも振り返り、さらに「何か」を見つけたいです。



教育と音楽

音楽分野

水野 逢衣

ピアノを中心に音楽活動を17年間続けてきたことから、しばしば、なぜ音大に進学しなかったのかと尋ねられます。その答えは、自分の中にある「音楽の楽しさを伝える教師になりたい」という明確な将来像を実現するためです。また地元に貢献したいという思いもあります。これらを踏まえて、宇都宮大学共同教育学部で音楽教育学を学ぶために、入学しました。

教育を学び始めて1年が経ちます。教師という仕事の面白さを知っていく反面、子どもたちに学びを提供する責任感も覚えました。そして、現在取り組んでいる教職ボランティアの活動で児童と過ごす時間は楽しく、教師になりたい気持ちを刺激してくれます。これからも教師を目指して勉学に励みながら、音楽活動にも力を注いで大学生活に奮闘していきたいです。



学習者から指導者へ

数学分野専攻

磯部 太一

宇都宮大学に入学して、将来の自身の姿がより現実味を帯びて思い浮かぶようになりました。数学分野は1年次から専門科目が設定されており、高校に比べて深い内容の数学を日々学んでいます。2年次には指導法の授業がより盛んになり、学習者の視点から指導者の視点に立って数学（算数）を捉えるようになってきました。私たちは日々数学をより多面的な視点で捉えることに励んでいます。また、今年度からは数学分野として学年の垣根を超えた交流を図っています。ここまで宇都宮大学での学びは1年程度ですが、教職とは「人と人」の関わりであり、様々な考えや性格をもった人たちとの交流には大事な意味を持っています。架け橋の役割を担うのはとても難しいことですが、日々自分にできることを一つずつ取り組んでいます。残りの約2年間でより自身を成長できるように前進していきます。

宇都宮大学共同教育学部同窓会について

宇都宮大学共同教育学部同窓会は、栃木師範・女子師範・青年師範・宇都宮大学教育学部（学芸学部）が、幾多の変遷を経ながら一体となって、昭和43年に「宇都宮大学教育学部同窓会」として誕生しました。令和2年度には、共同教育学部と学部名が新たになり、令和3年度から、共同教育学部同窓会としました。令和7年度で、149年という輝かしい歴史と伝統をもつ団体です。その間、同窓生は児童・生徒の教育に情熱を傾け、本県教育の中心的な存在として活躍してきました。

同窓会では、ねらいを「母校の発展に寄与すると共に、会員相互の親睦と資質の向上を図る」としています。

活動内容は下記の通りです。

母校である宇都宮大学への協力・学生支援

- コロナ禍における学生支援事業（R4年度 2回実施）
- コロナ禍・物価高における学生支援事業（R5年度 2回実施）
- 物価高における学生支援事業（R6年度 2回実施、R7年度 1回実施）

- 入学・卒業時に、学生への記念品贈呈
 - 教員採用試験対策セミナーへの支援
 - 就職支援室への協力
 - 災害時における対応（見舞金）
 - 施設の新設・改修への協力
 - ・学生のサークル活動施設（コスモス）の新設（H17年度）
 - ・宇都宮大学まなびの森保育園の新設（H18年度）
 - ・宇都宮大学旧講堂の改修（H19～22年度）
 - ・教育学部音楽棟の改修（H25～27年度）
 - 宇都宮大学・共同教育学部への協力
- ### 同窓会員の親睦
- 総会（県・各支部）の開催
 - 支部長・評議員会及び、支部長会等の会議の開催
 - 現職会員と終身会員との話し合い・交流
 - 会報（年1回）の配付
 - 会員の慶弔に関する事業
 - ホームカミングデーの協力

就 職 支 援

共同教育学部の学生が、資質豊かな教員になるため、以下のような支援をしています。

昨年度から栃木県教員採用試験2次の内容が変更になり、校種によっては論作文・集団討論がなくなり、面接が2回になりました。そこで面接指導を中心に宇都宮支部会員の皆様に指導していただいています。

1. 就職セミナー

教員採用試験対策春期セミナー（面接指導／4年生対象）

教員採用試験対策夏期セミナー（面接指導／4年生対象）

教員採用試験対策秋期セミナー（面接指導／3年生対象）

- 面接担当者：大野 薫・高梨敏朗・水越久夫・石川宗子・綱川芳孝・村上雅之・橋本和英・渡邊昌子・柏崎純一・小貫敬子・刀川恵子・中村ひろみ・戸部義則・大沢智恵子

2. 就職支援室

就職に関する全般の指導を常時行っています。（月～金／10：20～16：20）

- 就職支援室指導員：朝倉真美・高島利佳子

●令和7年度に終身会員（退職者）になられた方

【宇都宮支部】 束原定雄・後藤れい・小森喜代美・松原伸夫・堀場幸伸

【芳賀支部】 亀田賢一・市村政幸・橋本考夫・小池浩行

【栃木支部】 亀田浩史

【佐野支部】 牛久浩子・小林豊彦

【足利支部】 秋山年克

【塩谷支部】 加藤正明

【那須北支部】 森 秀明・生田目彰子



宇大教育学部保健体育科「同窓会」の歴史に幕

本会は昭和28年に設立されて以来、71年もの伝統がありましたが、令和6（2024）年11月16日に開催された総会において「閉会」が承認されました。

総会当日は大学の先生方や多くの会員の方々がご出席くださり、コロナ禍の時期に退官された小宮先生と、令和7年3月に退官された加藤先生からご挨拶をいただきました。そして、皆で宇都宮大学歌を声高らかに歌った光景はとても感動的でした。

最後になりましたが、71年間本会の活動にご尽力、ご協力いただいた皆様にお礼を申し上げ閉会のご報告とさせていただきます。（元同窓会長 青木 均）



令和7年度 定期総会の概況

第136回宇都宮大学共同教育学部同窓会定期総会を令和7年7月6日（日）に宇都宮大学共同教育学部 8D11教室で行いました。御来賓に池田宰学長・松村啓子学部長の御臨席を賜り、学長には御挨拶もいただきました。

議事では各議案に承認をいただき、「物価高における学生支援事業」も引き続き行うことになりました。

また、今年は総会終了後に前就職委員会委員長 株田昌彦教授から講話をいただきました。

令和6年度決算・令和7年度予算

令和6年度 一般会計決算報告

収入総額 3,041,078円
支出総額 2,817,065円
差引残額 224,013円
(残金は次年度へ繰り越します。)

令和7年度 一般会計予算

収入総額 2,771,063円
支出総額 2,771,063円
差引残額 0円

収入の部

△印は減額 (単位:円)

項 目	予算額	決算額	増 減	適 用
1 会 費	2,563,000	2,481,975	△ 81,025	
2 繰越金	519,056	519,056	0	
3 雑収入	0	47	47	利息
4 寄付		40,000	40,000	塩那同期会(那須北支部)より
合 計	3,082,056	3,041,078	△ 40,978	

収入の部

△印は減額 (単位:円)

項 目	予算額	前年度予算額	増 減	適 用
1 会 費	2,247,000	2,563,000	△ 316,000	
2 繰越金	224,013	519,056	△ 295,043	
3 雑収入	50	0	50	利息
4 特別会計からの収入	300,000	0	300,000	
合 計	2,771,063	3,082,056	△ 310,993	

支出の部

項 目	予算額	決算額	増 減	備 考
1 事業費	1,445,000	1,341,900	△ 103,100	支部活動援助・セミナー協力他
2 会議費	30,000	30,687	687	資料作成・印刷用紙他
3 旅 費	120,000	116,200	△ 3,800	正副会長会議・会計監査他
4 通信印刷費	600,000	514,271	△ 85,729	電話・インターネット・会報発送代他
5 事務局員手当	774,000	774,000	0	事務局員手当
6 慶弔費	40,000	28,800	△ 11,200	支部総会祝金・弔詞印刷代他
7 渉外費	15,000	10,972	△ 4,028	外部団体との交渉他
8 維持費	2,000	235	△ 1,765	
9 積立金	0	0	0	
10 予備費	56,056	0	△ 56,056	
合 計	3,082,056	2,817,065	△ 264,991	

支出の部

項 目	予算額	前年度予算額	増 減	備 考
1 事業費	1,348,000	1,445,000	−97,000	支部活動援助・セミナー協力他
2 会議費	25,000	30,000	△ 5,000	資料作成・印刷用紙他
3 旅 費	50,000	120,000	△ 70,000	正副会長会議・会計監査他
4 通信印刷費	520,000	600,000	△ 80,000	電話・インターネット・会報発送代他
5 事務局員手当	774,000	774,000	0	事務局員手当
6 慶弔費	20,000	40,000	△ 20,000	支部総会祝金・弔詞印刷代他
7 渉外費	12,000	15,000	△ 3,000	外部団体との交渉他
8 維持費	1,000	2,000	△ 1,000	
9 積立金	0	0	0	
10 予備費	21,063	56,056	△ 34,993	
合 計	2,771,063	3,082,056	△ 310,993	

令和6年度 特別会計決算報告

収入総額 7,160,755円
支出総額 410,450円
差引残額 6,750,305円

令和7年度 特別会計予算

収入総額 6,750,505円
支出総額 300,000円
差引残額 6,450,505円

1 収入の部	7,160,755円
内訳 (1) 前年度繰越金	7,160,570円
(2) 預金利息	185円
2 支出の部	410,450円
(1) 第1回物価高における学生支援事業	206,150円
(2) 第2回物価高における学生支援事業	204,300円
3 差引残額	6,750,305円

1 収入の部	6,750,505円
内訳 (1) 前年度繰越金	6,750,305円
(2) 預金利息	200円
2 支出の部	300,000円
(1) 一般会計への繰入	300,000円
3 差引残額	6,450,505円

上記の通り、令和7年度の一般会計・特別会計の決算報告をいたします。

令和7年3月31日 宇都宮大学共同教育学部同窓会長 橋本 和英 ㊞

会計監査の結果、関係諸帳簿及び証憑書類が正確に処理されており、誤りのないことを認めます。

令和7年4月1日 監事 市岡 正嗣 ㊞

監事 渡邊 昌子 ㊞

叙勲受章者への賀詞贈呈 おめでとうございます

◎瑞宝双光章	蓮見 徹 様 (塩谷)			
◎高齢者叙勲	柴田ミチ子 様 (宇都宮)	南木正義 様 (宇都宮)	吉原秀雄 様 (宇都宮)	小野守正 様 (日光)
	田所弘光 様 (日光)	福田恒男 様 (日光)	岡田明義 様 (小山)	富山泰明 様 (小山)
	芝宮常之 様 (佐野)	根本千次 様 (佐野)	星野雅昭 様 (佐野)	堀江英夫 様 (足利)
	安藤得治 様 (那須北)	磯 靖雄 様 (那須北)	洪井 節 様 (那須北)	鍋谷善隆 様 (那須北)
	林 茂充 様 (那須北)	森高久好 様 (那須北)	國安隆夫 様 (南那須)	鈴木 篤 様 (南那須)
	三尾谷芳徳 様 (南那須)			

退任者への感謝状贈呈 お世話になりました

今野 守 様 (上三川支部長)	小林優子 様 (南河内支部長)	荏原寛一 様 (日光支部長)	鈴木教益 様 (都賀支部長)
田波千紘 様 (石橋支部長)	新村 勲 様 (大平支部長)	吉田玲子 様 (野木支部長)	柿沼利幸 様 (藤岡支部長)
大橋孝江 様 (岩舟支部長)	白石成世 様 (小山支部長)		

令和7年度同窓会役員・支部長名簿

【役員】

- 客 員 池田 宰・松村啓子
- 顧 問 柴田 毅・松本展壽・増淵茂泰
- 会 長 橋本和英
- 副会長 大豆生田 将・加藤義勝・相ヶ瀬 浩
- 高梨敏朗・間宮栄二・堀田由美子
- 石川宗子・林田浩二・高橋重年
- 監 事 市岡正嗣・渡邊昌子
- 事務局 大沢智恵子・高尾亮子

【支部長】

宇都宮	橋本和英	上三川	野口修一
南河内	上野友美	西 方	草刈勇貴
日 光	長沼孝司	芳 賀	小林和男
都 賀	小柳ひろみ	壬 生	北見 修
石 橋	余川美智雄	国分寺	加藤義勝
大 平	曾根美幸	野 木	西村季恵
藤 岡	小倉友里恵	岩 舟	宮崎俊臣
小 山	輕部泰司	栃 木	木村信孝
佐 野	嶋田政己	足 利	岡崎佐季子
塩 谷	五味洲俊夫	那須北	小松隆夫
南那須	相ヶ瀬 浩		

ご寄附をいただき
ありがとうございます

昭和36年度宇都宮大学卒業 塩那同期会
(会長 高久勝美様) が会員の高齢化に伴い、
解散するのにあたり、残金を寄附してくださ
いました。令和6年度決算報告にありますよ
うに大事に使わせていただきました。



講話：学生の進路選択の傾向 ～年次進行に伴う教員志望率の変化から～

講師：宇都宮大学共同教育学部 美術分野教授 前就職支援委員長 株田昌彦先生

前年度までの就職支援委員長という立場から、学生の進路選択の傾向について話をさせていただく。
初めに、「教員就職率、教員採用試験受験率」について

令和元年度から令和6年度の卒業生の傾向を見てみると、教員就職率が、55.2%（令和元年度）
から66.5%（令和6年度）に増加している。また、教員採用試験受験率も、63%（令和元年度）か
ら74.3%（令和6年度）と増加している。（昨年度の卒業生の進路状況は、卒業生167名のうち教員
就職者111名（臨採23名含む）、進学11名、公務員20名、民間22名、その他3名となっている。）

次に、「進路希望調査から見る教員志望率の変化」について

進路希望調査は、毎年4月に全学年で実施している。昨年度の卒業生の教員志望率は、1年次（87.4%）から4年次
（70.6%）としだいに下がっている。他の年度の卒業生も同じ傾向がみられる。大学では、平成27年度入学生からクラス
担任制を実施、平成29年度入学生より教職ボランティア入門を開始した。学生からは、1年次から現場体験をしたいと
いう声があるので、今後どうするかが課題だ。

3番目に、「進路変更学生へのヒアリング」について

進路希望調査の結果、2年次から4年次において①教員から教員以外へ ②教員以外から教員へと進路変更した4年
生を対象にクラス担任がヒアリングを実施した。その結果から、1年次では教職に対する漠然とした不安があること、
各分野内での教採への雰囲気づくりや新採合格者のサポートの重要性、ボランティアや教育実習におけるサポートの必
要性、近年は教採と民間や公務員を両方受験する学生が多い傾向があることが分かった。そこで大学では、新入生セミ
ナーでのサポートや就職支援室との連携、教育実践専門委員と各教員と連携を図る等、対応している。

4番目に、「教員採用試験のサポート」について

近年の栃木県教員採用試験の変更内容は、①小学校実技（ピアノ、水泳）の廃止 ②大学推薦枠の創設 ③3年次試
験導入である。教員採用試験へのサポートとして教員採用試験対策セミナー（春期、秋期）を実施している。1次・2
次試験対策では、大学教員による特別講話や就職支援室や同窓会との連携を図り取り組んでいる。



今年度も引き続き学生支援を実施（6回目）



7月25日 同窓会から学生への支援を行いました。行列ができるほどの学生が集まり、大変好評でした。

配布した品物は…

- 食品（レトルトごはん・レトルトカレー・カップ麺）・日用品（ポケットティッシュ）をまとめて一袋に
- 食券（QRコード読み込み）
- 希望者には、じゃがいもや玉ねぎ、きゅうりを配布

学生からの声

- 一人暮らしなのでありがたいです!!（多数）
- 500円のチャージは、とてもうれしかったです。（多数）
- 物価高の中、このような取り組みを行っていただき、とてもありがたいです。
- 応援されているとわかり、うれしくなりました。
- 今回も助かりました。
- 物価高で食料（主に学食）の値上げがすごいので、すごく生活が助かります。 等



福田博之監督 記念講演会を実施（栃木県立石橋高等学校硬式野球部）

「夢をかなえる 人を育てる」

主催：宇都宮大学共同教育学部・宇都宮大学硬式野球部

宇都宮大学野球部同窓会

後援：宇都宮大学共同教育学部同窓会

日時：2024年11月24日（日）14:00～15:30

会場：宇都宮大学峰キャンパス6号館6A21教室



福田博之氏は、本大学の卒業生で、石橋高等学校の硬式野球部監督として硬式野球部を甲子園に導くなどで活躍されています。今回は「どの学校に異動してもこの職場が一番好きな場所、この生徒たちが一番大切な宝物だと思って勤めています。」という言葉が心に残る講演会でした。

編集後記

教員不足等の課題に対して、近年全国的に教員採用試験の大幅な改変がなされています。そこで今回の会報では、「同窓会から教員採用試験に向けての学生支援について」および「栃木県教員採用試験内容の主な変更点」を特集としました。

7月の講演会では、株田教授から昨年度の卒業生の教授受験率が近年最高であったことなどの話がありました。（講演会の概要については、P11をご覧ください。）教員を希望する学生が少しでも多く教員採用試験に合格し、教員として活躍できるよう、同窓会としてさらに支援していきたいものです。

大変お忙しい中、ご寄稿いただきました皆様に感謝申し上げます。

【編集委員】石川宗子・小林純子・徳永幸子・大沢智恵子・高尾亮子